

中野区教育委員会会議録 平成26年第3回臨時会

○開会日 平成26年7月29日(火)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 6時30分

○閉 会 午後 8時48分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	奈 良 浩 二
副参事(子ども教育経営担当)	辻 本 将 紀
副参事(学校教育担当)	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
中野区立小学校教科用図書選定調査委員会委員長	多 田 孝 志

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	高 橋 綾 菜

○会議録署名委員

委員長	小 林 福太郎
教育長	田 辺 裕 子

○傍聴者数 0人

○議事日程

〔協議事項〕

(1) 平成27年度使用教科用図書の採択について（指導室長）

中野区 教育委員会  
第3回臨時会  
(平成26年7月29日)

午後6時30分開会

小林委員長

ただいまから、教育委員会第3回臨時会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、田辺教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項、「平成27年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、「中野区立学校教科用図書の採択に関する規則」第10条第1項に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

(以下、非公開)

(平成26年第24回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

小林委員長

それでは日程に入ります。

協議事項「平成27年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項に関連して、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会の調査報告を行っていただくため、同委員会の委員長、多田孝志さんに会議への出席を求めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会委員長、多田孝志さんに会議にご出席いただくことにいたします。

それでは、多田委員長、どうぞご着席ください。

初めに、本件協議に当たりまして、事務局から教科書採択にかかわるこれまでの経過について報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、お手元の資料「平成 27 年度使用中野区立小学校教科用図書の採択について」、ご説明をいたします。

まず、制度の概要でございますが、そこに書きましたように、文部科学大臣の検定を経たもの、又は文部科学省が著作の名義を有するものの中から、種目ごとに 1 種類の教科書を採択するものでございます。今回は 9 教科、11 種目、出版者は 15、計 253 冊が採択の対象となっております。

次に、教育委員会における採択に関する一連の流れについて、確認の意味も含めご報告をいたします。

4 月 25 日の第 12 回定例会において、教科用図書の採択基準を決定していただきました。さらに、調査・研究項目、それから、区立小学校、児童、保護者・区民からの意見の聴取の方法についてもご決定をいただきました。

また、5 月 2 日の第 13 回定例会においては、選定調査委員会の委員の決定。学識経験者 3 名、校長・副校長 3 名、教諭 3 名、保護者 3 名、公募区民 3 名の方に委員をお願いいたしました。その後、選定調査委員会において計 5 回にわたって教科書の調査研究を実施いたしました。詳細については、この後選定調査委員会委員長よりご報告をいただく予定でございます。

それから、資料の 2 (3) です。保護者・区民の意見の聴取ということで、教科書展示会の状況、それから保護者・区民の意見についてご報告をいたします。教科書選定での法定展示、それから特別展示を 6 月 3 日から 6 月 26 日までの 24 日間、実施をいたしました。場所は、旧地域生涯学習館で巡回展示ということで行いました。巡回展示については、5 月 22 日から 7 月 15 日まで、若宮小、南中野中、江原小、桃園小の順でそれぞれ展示を行いました。会場には意見箱を設置いたしまして、保護者・区民の意見を聴取いたしました。この意見の内容につきましては、後ほどご報告をさせていただきます。

また、そのほか、学校意見の聴取ということで、5 月 22 日から 6 月 19 日まで全 25 校で教科書巡回をさせまして、調査研究を実施しました。

その他、児童意見ということで、資料にございます 6 校を選定いたしまして、それぞれ異なる学年の学級で実施をいたしました。

以上、これまでの教科用図書採択にかかる経過について、ご報告させていただきました。

小林委員長

続きまして、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会、多田委員長から選定調査委員会の調査報告をお願いいたします。

中野区立小学校教科用図書選定調査委員会委員長

選定調査委員会委員長を拝命いたしました目白大学の多田と申します。よろしくお願ひいたします。

ただいまから、選定調査委員会の報告をさせていただきますが、正確を期すために、報告書を読む形でのご報告という形をとらせていただきますのでご寛容ください。

それでは、始めます。

初めに、教科用図書選定調査委員会ですが、学識経験者3名、区立小学校の校長先生と副校長先生3名、区立小学校の教員の方3名、区立小学校に在籍する児童の保護者3名、区民の方3名、すなわち都合15名から成る委員会でありました。選定委員会は本年5月7日に設置されました。第1回の会合は、設置された日の翌日の5月8日に開会し、その後、6月26日、7月1日、7月7日、7月22日の都合5回の委員会を開催し、ここでは全て教科書についての調査をいたしました。なお、調査をするに当たり、中野区における教科書採択の基準に沿って調査を進めてまいりました。

それでは、これから選定調査委員会の活動について、ご報告させていただきます。

5月8日に第1回目の委員会が開催され、そこで今後の方針等が示された後、選定調査委員は、採択に関する規則、要綱、採択基準と、中野区教育委員会の教育目標、指導目標、小学校の学習指導要領などの資料をいただきましたので、約1か月間、教科書展示会場等で、まず教科書を読み込み、また、教科書趣意書なども参考とし、6月26日からの第2回の会合以降、それぞれ1時間半程度の中で、国語から保健体育までの各教科ごとの教科書について、おのおの忌憚なくそれぞれの立場から意見交換を行ってまいりました。

補足ですが、この会議では、全員の発言の機会を提供することを基本にしておりましたので、毎回各委員1回ないし2回の発言があったことを申し添えておきます。

現職の教員からは、この教科書を使うならばどのような指導ができるか、また、どのような授業をすることができるかが述べられ、保護者の方々からは子どもの視点で興味をどう引き出すことができるかを重視した意見や、教科書の大きさや厚さの観点から、子どもの道具箱やランドセルに収納できるのか、持ち運びにくそうではないかといった観点の意

見が出されました。また、区民委員の方の視点からは、自分がもし小学校の児童だったら、どのように教科書を選んでいるか等の意見があったことをご報告いたします。

それでは、具体的な内容について申し上げたいと存じますが、時間も限られておりますので、特に社会について報告をさせていただきます。社会については全体的には、学習に役立つ資料が豊富であるということが重要なファクターであるという意見が数多く出てまいりました。一方、多いと消化し切れない可能性もある。混乱してしまうのではないかと意見もありましたが、写真などはやはり子どもたちがその事実を見て、そこから何かを感じるもの、気づくものがあるといいと思う。教える側がいろいろな手だてをとりながら、その写真等を提示していかなければいけないという学習方法に関する論議もそこに出てまいりました。

また、領土に関する部分については、区民委員の方から、竹島等について、我が国固有の領土としての記述があるのがよいという意見がある一方、保護者の委員からは偏った情報による記述がなされないように配慮すべきだという意見も出てまいりました。現職の先生や学識経験者の方からは、生活からの発展という視点や、実際に教えている立場、発達段階を考慮すべきという意見もありました。

私自身としては、平成 30 年度から学習指導要領は、恐らく「21 世紀型能力」ということが重視されることは間違いありません。これは、国立教育政策研究所の会等に出ていますと、そのような論議がありますので、恐らくサステナビリティとか、持続可能ということを基本的観点にしながらも、「21 世紀型能力」ということが重視されることは間違いのないということも、教科書選択については考慮すべきだということ申し述べたということがありました。

また、海外を取り上げた場合に、欧米だけではなくて、イスラム諸国やブラジル、中国や韓国など、グローバルな視点を入れたほうがよい。これは私のみならず他の委員からの意見もそのようなことがあったことをご報告いたします。

社会科のどの教科書も素晴らしいと思いますが、方向性としては、社会科の持つ狙いを意識しながら、その中に、今までの社会科と今後の社会科という視点があるはずであり、それに向かってどのような教科書が最も子どもたちにとって、そして教師にとってよいかという視点で選びたいということが出てまいりました。

また、中野区が小中連携教育に取り組んでいるということを考えると、あらゆる教科書

の中で小中連携という視点も必要かという意見も出たことを申し添えておきます。

以上、雑ぱくでございますが、選定調査委員会における報告とさせていただきます。

その他の教科につきましては、お手元でございます「教科用図書選定委員会報告書」に記載されておりますので、本日の報告及び資料が、これからの教育委員会における教科書採択の協議を進めるに当たって、少しでもお役に立つことを願っております。

以上で報告とさせていただきます。ありがとうございました。

小林委員長

続きまして、事務局から、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の研究結果の報告と、「中野区立学校教科用図書の採択に関する要綱」第2条に基づく、学校、児童、保護者及び区民からの意見についての報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、中野区立小学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の研究結果の報告、それから学校、児童、保護者及び区民からの意見についてのご報告をいたします。

お手元にファイルの資料があるかと思いますが、そちらにインデックスがついているかと思いますが。上から順に調査研究会の報告、それから学校意見を集約したもの、それから児童意見を集計したもの、そして区民・保護者の意見を集計したものとなっているかと思います。

まず、調査研究会からの報告ですが、4月25日の教育委員会で決定をさせていただいた調査・研究項目に従いまして、詳細な研究を実施してございます。それぞれの委員につきましましては、各教科の部会、それから小教研等の教科部で、その研究をしている者が中心となって研究を進めたものでございます。報告書の最初のページから教科ごとにつづってございますので、そちらのほうを少し説明をさせていただければと思います。

教科ごとに並んでおりまして、1枚目に国語についてのものが一覧になってございます。その後ろのページには各出版者ごとに細かいものが出ておりますが、まず国語について簡単にご説明をいたします。国語は全部で5者ということですが、そこにキーワードが載っておりますが、まず各学年の発達段階に沿って系統的に展開されているかどうか、それから学習に対する意欲を高めるものになっているか、また、入門期のつくりが適切であるかどうかということの視点について、それぞれ調査研究が行われてございます。詳細につきましては、各個票をお読み取りいただければと思います。

次に書写についての記述が一覧になってまとめているものがあります。全部で6者ございます。書写のポイントは、3年生から毛筆指導が始まるわけですが、その書き初めの文字とか、又は一番最初の入門期に何文字を指導するのが適切だとか、そういうことを観点にして調査をいたしてございます。詳細につきましては、各者の個票をお読み取りください。

続きまして、社会でございます。社会は4者ということで、ここでの観点は、問題解決型の学習を進めるのに適切かどうか。また、学び方とか、それから学習課程について適切かどうかということ観点として、調査をしてございます。

続きまして、地図です。地図は2者で、そこに書いてあるような観点で調査研究をしてございます。

2枚飛びますと、今度は算数になります。算数は出版者の数が多いのですが、学び方の習得とか、それから算数という教科が児童の身近な生活の事柄を扱っているかどうか、また、基礎、基本をどのぐらい丁寧に押さえているかというあたりが観点となつてございます。基礎、基本のことで言いますと、スモールステップとか、それからレディネス問題が用意されているかというあたりの記述が幾つかございます。

続きまして、理科です。理科は5者ということになります。理科も、問題解決学習という流れに学習の流れができていないとか、それから発展的なことをどのように扱っているかというところが、記述のポイントとなつてございます。

続きまして、生活になります。生活は内容面と構成面という2点の観点で、それぞれの教科書を評価させていただいてございます。

続きまして、音楽です。音楽は2者ということで、その各者の特徴について、資料の形で報告をさせていただきます。

2枚飛びまして、図画工作です。図画工作も2者ということで、それぞれの特徴がございまして、マークの扱いなどが話題になつてございました。

2枚飛びまして、家庭です。家庭も2者ということで、道具の使い方とか、写真の扱い方、このあたりが記述をされてございます。

最後、保健になります。保健は5者ということで、基礎的な事項をきちんと押さえるとか、それから話し合い活動や考えて書く活動などについての配慮がされているかどうか、それから食事、睡眠、運動の大切さがどのくらい記述されているかというあたりが、全体の

ポイントとなっております。

雑ぱくではございますが、以上、各教科についての特徴的な部分をご報告させていただきました。

続きまして、学校意見ということで、資料のところに一覧が載っているかと思えます。詳細については、各学校の意見を集計したものでございますので、お読み取りいただければと思います。

その次が、児童の意見でございます。児童意見につきましては、1年生から3年生までの低学年の部分と、裏面が4年生から6年生までの高学年の意見となっております。かなり子どもの視点でなるほどというようなものが幾つかございますので、子どもたちはこういうところを教科書に期待しているということがお読み取りいただけるのかなと思えます。

最後に、区民・保護者の意見です。上の段が法定、それから特別展示会における区民・保護者の意見でございます。

それから、下のほうが巡回教科書展示会ということで、各小学校とか、そういうところに置かれていた教科書を見て、子どもたちにとってどのような教科書がよいか、教育委員会に望むこと、その他ということで意見が出されておりますので、詳細についてはお読み取りいただければと思います。

報告は以上でございます。

小林委員長

ただいまの各報告につきまして、質疑がありましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、質問がないようですので、以上で報告は終了させていただきたいと思えます。多田委員長、本日はご出席ありがとうございます。どうぞご退室ください。

それでは、ここで本件協議の進め方についてお諮りをいたします。本件協議に当たっては、原則として、選定調査委員会の調査報告を踏まえ、教科種目の教科書ごとに協議を行いたいと思えます。その際、まず各委員から順にご意見を伺います。ご意見を伺う順番は、委員長の私から順に指名をさせていただきます。その後、協議を行い、採択候補とする教科書を決定いたします。最後に、特別支援学級で使用する教科書について協議し、採択候補とする教科書を決定したいと思えますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、そのように協議を進めることに決定いたしました。

それでは、国語についての協議を始めたいと思います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず、渡邊委員、お願いをいたします。

渡邊委員

それぞれの教科書に特徴はあるし、いろいろな面での配慮がなされているということで、実際にこれが使いやすいのかどうかというのは、決め手というものはなかなか難しいかと。そうは言いながらも、それぞれの特徴というのは確かにあるなど。説明が非常に細かにされていたり、1冊か2冊に分かれているという見た目でわかる特徴と、それと付録のような形でついている本と、それと一つ一つ細かく導いていくようなやり方をしている構造のものがあるなど感じました。

以上です。

小林委員長

では、次に高木委員、お願いいたします。

高木委員

国語の教科書につきましては大変読みごたえがあって、うちの次男が今6年生なので、主に6年生のところを中心に見たところでございます。どの教科書も検定を通過していますので、それぞれやはりこれがだめということはないと思うのですね。なので、特に私としても、どうしてもこの教科書でなければということはないのですけれども、現在使用している光村図書出版に関しては、やはり私の年代でも読んでいて安定感があるような気がします。

あと、教育出版も、なかなか今風な展開をしているなという理解はしています。もちろんほかのところも悪いということはないのですが、前回の採択替えのときに光村図書出版に変えて、その後の学校の現場の評判も悪くないと思っているので、そういったものも踏まえて選定をしていくといいかなと思っています。

小林委員長

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

国語は表現するという分野と、よい文章を鑑賞するという、大きく分けると二つの分野があると思います。それぞれの分野から本を見ていくということが必要かなと思って見ておりました。

あと、読書活動の充実ということも大変大きなテーマになっております。まず、その読書活動というところだと、中野区では特に読書ということには非常に重点を置いて指導していることもあるのですが、各者ともに読書ということに、図書館の利用とかいうことについては取り上げております。大体1年の4月当初の読み聞かせというところから始まって、4月から6月ぐらいの間に図書館の紹介があるというような教科書が多いのですけれども、光村図書出版の場合は夏休み前の段階で図書館へ行こうというような紹介になっております。そんなわけで各者とも取り上げていると。あと、各者とも巻末に本の紹介がついておまして、特に教材と関連する図書の紹介というのがあって、並行的な読書が展開できるようになっているという点があると思います。

あと、本の体裁のことから言いますと、5年と6年については上下2冊に分かれているのが学校図書と教育出版で、あとの3者は1冊になっていると、そんなことだと思うのです。

それで、各者を見てきまして私が気がついたことですが、三省堂につきましては、あまんきみこさんという作家の方の文章が1年から4年まで全部教材になっております。2年以上の教科書については「あまんさんの部屋」というコラムもあります。やはり1人の作者の方にちょっと偏っている点がどうなのかなという疑問がありました。もちろんあまんきみこさんの文章自体はなかなか大変すばらしい立派な文章で、それは全然問題がないのですけれども、やはり教材の選び方がちょっと偏っているのはどうなのかなという疑問がありました。それから、2年生以上で「学びを広げる」という薄い本がついているのですけれども、これの扱いがちょっと難しいのではないかなと思われまます。その薄い本の中に教材となるような文章も入っているのですけれども、これをやるべきなのか、これは別冊だから後回しにするべきなのかなというのが、ちょっと先生方も迷われたりするのではないかなと思いました。

学校図書ですが、学校図書は1年の初めのところで動物が多く出てきまして、子どもが少ないのですね。幼稚園、保育園を卒業して、これから学校で勉強が始まるという段階で、

子どもが出てくるほうがやはり児童にとっては身近に感じられて、自分と重ね合わせるというイメージが持ちやすいのではないかと。ちょっと動物が多いというのはどうなのかなという疑問がありました。文字が少し小さ目で、行間が少し狭いかなという印象です。それから、学習の進め方とか展望ということについては、特に書かれていないように思いました。

東京書籍は逆に学習の進め方とかも、冒頭に1年間の見通しを持つとうというようなことで進め方についての指導がありますし、目次も非常に充実したものになっていると思います。ただ、目次が折り込みになっているのがちょっと使いづらいかなとは思いました。東京書籍は、全体に非常に学習の進め方についての指導が丁寧だったと。教材なんかも適切だと感じました。

教育出版も全体的にはよくできていると思うのですが、1年生の教科書の初めのほうでページに穴があいていて、その穴をあけるとクマさんだったというようなことで仕掛けがあるのですけれども、その意味がちょっとわからないなと思いました。それから、2年の下巻のところで『いなばの白うさぎ』のペープサート用の厚紙というのが付録のようについているのですけれども、これがあるために本が固くなってしまって扱いにくいということと、そのペープサートも出てくるのが、ウサギが1羽とワニが1頭というのみで、ペープサートにする意味があまりないような気がいたしました。字が大きくてゆったりしているのはとてもいいかなと思います。あとは、付録で「この本で学ぶこと」というのがあって、ここで紹介されているのが全体の学習の見通しになっていていいのですけれども、もうちょっと前のほうに目立つようにあったほうがいいなと思いました。あと、各学年の初めのところに3領域、読む、話す、書くという領域について短い単元が初めについているのですけれども、何かこの効用というのでしょうか、この単元の意味がちょっとよくわからなくて、中途半端な感じがいたしました。

それで、光村図書出版ですけれども、私はいろいろ比べてみると、やはり光村図書出版がいいように思ったのですが、その理由を述べますと、一つは、四季、春夏秋冬に合った題材を選んでいるということとか、字が大きくて行間がゆったりしているということ、それから、3年生以上なのですけれども、各巻の初めに「何年生の学習を見わたそう」というページがありまして、その本の学習全体が見渡せるようになっているというところ。それから、5年の104ページに、クラスの提案というのと、それから天気を予想してグラフや表を書こうというこの二つの単元について、それぞれフローチャートが描いてあります。

それでやるという学習の進め方を示しているのですけれども。

このフローチャートというのは6年にもたくさん出てきまして、45ページの学級討論会とか、未来がよくなるための意見交換とか、意見文の構成の例とか、鳥獣戯画の感想文とか、そういうようなところで、たくさんフローチャートで、こうやって、こうやって、こうやってみたいなことで活動の進め方を示していて、これがすごくわかりやすく、いいのではないかなと思いました。

それで、一番決め手というのが『大造じいさんとガン』という題材なのですね。これが5年生で、三省堂以外の4者でみんな取り上げているのです。皆さん、お読みになって知っているらっしゃるかもしれないですけども、物語は大造という猟師がガンを捕えようということで悪戦苦闘するということですけども、自分の飼っているガンをおとりにしてガンを生けどろうとするのですけれども、そのおとりのガンをハヤブサにやつけれそうになったときに、ガンのリーダーの鳥が自分の飼っているガンを助けてくれると。それに対して、自分が狙っている相手なのだけけれども、そのガンが英雄といいますか大したやつだということで感服し、敬意を払うというような話なのですけれども、ほかの4者は本文だけなのに対して、この光村図書出版は前文が、この話には前の文があるのです。その前の文まで載せているというところなのです。この本文だけを読みますと『大造じいさんとガン』という題名ですから、猟師はおじいさんかと思うわけなのですけれども、実は、その前文を読むと、大造じいさんの家に行って、そこで、いろいろ端で昔話を聞いたと。それをこれから紹介しますねということで、大造じいさんが若いころの話だったということなのですけれども、「これからいろいろのたき火とか、そういうのを想像しながら読んでくださいね」とかいう前文があることで、この物語がぐっと奥行きを増したというか、前文がついていることで全然味わいが増している、味わいが違うというようなことがありまして、こういう前文をつけたというところに私も感服しまして、光村図書出版の文学に対する、ちょっと大げさですけども、真摯な態度といいますか、それを見たようなことが感じられまして、そんなことが最後の決め手ということで、私としては光村図書出版がいいのではないかと思いますけれども、でも、ほかの教科書も十分に大変立派なので、ほかが悪いという意味では全くございませんので、ほかの委員の先生のご意見も伺ってと思っております。

以上です。

小林委員長

ありがとうございます。では、次に田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

今、国語の教科書のことでは、大島委員から詳細にご意見をいただいて、私と重複するところもあったのですが、なるべく重複しないような形でお話しさせていただきたいと思います。

教科書をどうやって選ぶかということでは、やはり教師が教えやすく、児童・生徒が学びやすいという視点が大事だと思っているのですが、近年の傾向として見ると、若手教員がほとんど大部分を占めるというような学校もふえてきている中で、やはり教師が教えやすいというところでは、本当にステップを踏んで教科書ができていますので、そういうところを意識した教科書と、従来どおりの構成の仕方の教科書というものもあるのですが、どちらがいいかなといろいろ考えてみてはいるのですが、ここまで丁寧にやらなくてもいいのではないかと、手取り足取り教えなくてもいいのではないかと、思いもあつたのですが、やはり若手の教員にしっかりそういうところを踏まえて教えてもらいたいという思いもあるので、やはり進め方とか、それから学習の仕方を子どもたちと一緒に自分たちも学んでいこうという教科書を選ぶほうがいいのかなというふうな視点で教科書を見てみました。

全体の印象ですが、先ほども大島委員からありましたように、三省堂については、付録の発展的学習の別冊が使いづらいのではないかと、使うタイミングがわかりづらいのではないかと、思っています。それから、光村図書出版と東京書籍については、5、6年が1冊ということで、中野区としては小中連携教育も進めているところですので、中学校を意識した教科書なのではないかなと思っています。それから、光村図書出版については、各学年ごとに教科書に愛称がついていて、1年生だと「かざぐるま」とか、「ともだち」とか、とても親しみの持てる工夫だなと思いました。

それから、大島委員も図書館についてのことのお話がありましたけれども、国語の教科書を通じて小学校時代に本に親しむというか、文学に親しんで、よい作品に触れて感動を味わうとか、その読書活動の基礎になることをしっかり身につけてもらいたいという思いもあります。特に最近はパソコンとか携帯で簡単に資料検索などをする時代の中で、しっかり文字と触れ合うというのを小学校の時期に学んでもらいたいなという思いで、国語を見ていました。

そうしますと、やはり何人かの委員からもありましたように、全体的に見ると、光村図書出版は四季折々の日本の風土とか自然を折り込んだ作品を多く掲載しているというよう

なことがあります。読書指導や文学に触れるということでは、一番いいのかなというような思いを持っているところです。それから、教員にとっても、解説や、それから子どもたちと考えたり話し合ったりというのがタイミングよく出てきていて、思考力、判断力というようなことを育成していく、そういう、教員が指導するにはよい教科書ではないかなと思いました。

ほかの教科書が別にそれがいいかという、そういうことはないのですけれども、特に特徴的に国語にとっても力を入れているなというような印象を持ったので、私としては光村図書出版が個人的にはいいのではないかと考えていますが、それ以外の教科書もさまざま工夫をしていて、発展的学習であったり、まとめを工夫するというようなことでは、遜色ないというふうには思っているところです。

以上です。

小林委員長

最後に私の意見を申し上げます。まず、国語というよりも今回の採択に当たって、私の個人的な考えとしては、学習指導要領は今回、改訂期には重なっておりませんので、いわゆる小改訂における教科書採択ということもありますので、学校の教育活動、その他を考えたときに、特に実技教科以外の、いわゆる内容教科と言われる国語であるとか社会、算数、理科の本体というか、書写とか地図はちょっと別といたしまして、これについては、私は、継続でもよいのではないかという基本的な考えを持っています。

ただ、こういった制度があるわけですし、各者とも改訂しているわけですから、しっかりとした新たな視点で見るということは当然重要かと思えます。逆に言うと、今私が申し上げた継続性を覆すほどの新たな視点での編集がされているかどうかということで考えると、なかなか現行の光村図書出版を上回る改訂をしてはいないのかなというのが率直な考えでございます。

それはほかがだめということではなくて、それぞれよさがあるわけですが、共通したよさは、特に言語活動に力を入れているとかそういうことがありましたけれども、先ほど大島委員もお話がありましたが、特に学力の向上という視点では、活動の流れ、フローチャートを多用した、そういった工夫も随所に見られますので、私も内容、それから取り上げている教材が比較的安定しているというようなこともありますし、いわゆる選定調査委員会、その他の支持も高いというようなこともございますので、私も光村図書出版を中心に考えていくことがよろしいのかなというような考えを持っております。

今、各委員からご意見を述べていただきましたが、さらに何かご意見があれば、ここで承りたいと思います。いかがでございましょうか。

渡邊委員

内容的に見ていて、指導のしやすさとか、つながりとか、いろいろとあるのですけれども、やはりそういう意味では、光村図書出版がいいと感じました。

小林委員長

ほかにご意見はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、これまでの協議では、光村図書出版というご意見が強かったと思いますので、国語については光村図書出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、国語については光村図書出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、国語については光村図書出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、教科書を入れ替えますので、休憩いたします。

午後7時21分休憩

午後7時24分再開

小林委員長

それでは、再開をいたします。

次に、書写について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、高木委員、お願いいたします。

高木委員

なかなか書写は難しゅうございまして、学校公開等で現場に行っても、なかなか書写をやっている場面というのは遭ったことがないですね。国語ですと、1校見に行くと、1学年2クラスないし3クラスでやっていると、学年を問わなければ大体2クラスか3クラスぐらいが国語をやっているのですが、正直申し上げて書写に関しては自分の子どものところで1回見たぐらいで。ただ、特に毛筆を使うということになりますと、本当に1回か2回ぐらいしか見たことがないので、自分が子どものころと比べると大分時間数も減っていると思うのですが、逆に言うと、そこの指導がなかなか難しいのかなと思っております。

現行で使用しております東京書籍もなかなかいいなと思っておるのですが、お手本の使い方等々で、例えば学校図書は手本としてちょっと見やすいのかなという気はします。つくり自体がだんだん JIS 規格になって大きくなっていますので、各教科書でちょっと使いづらいというのはないのかなと思っております。正直に申し上げて、ちょっとここがというのは特にはないですね。

小林委員長

それでは、次に大島委員、お願いいたします。

大島委員

私は各者の観点で比べてみたのですけれども、まずは、1年の初めのところで、十字リーダーが大事だなと思うこと。要するに、文字を書く四角い囲みの中に十文字に点線が入っているかどうかということなのですけれども、今は幼稚園などでも字が書ける子がたくさんいるとはいえ、やはり1年生になって初めて平仮名を習うというのが建前にもなっておりますし、文字を書くのに正しい形を身につけるということが大事だと思うので、十字リーダーのことですが、それが文字を習う初めに正しい形で書くということを学ぶために、十字リーダーがすごく大事かと思いました。それで教科書に十字リーダーがどこまで使われているかということですが、光村図書出版と教育出版は1年生の途中までは出てきています。東京書籍は初めのほんの少しだけで、あとはもう出てこないですね。三省堂と学校図書と文教出版は、1年生はずっと全部ありまして、2年生の途中までであるというようなことです。

それから、鉛筆の持ち方についてですけれども、写真入りで丁寧に説明しているのが東京書籍で、学校図書、日本文教出版については、写真もありますし、姿勢についても写真入りで説明していると。光村図書出版は姿勢についての写真はなくてイラストだけなので、持ち方については、イラストですけれども順番に四つに分けて説明しているので、これは説明としてなかなかいいかなと。三省堂がイラスト、持ち方について、手のイラストのみであるというようなことで、やはり姿勢の写真もあって、手のところも写真であるのいいのではないかなと思いました。

それから、3年生の毛筆の初めのところですが、初めに何という字を書くかということにつきましては、東京書籍と教育出版が「一」と、「一 二」と。学校図書が「十」という字、三省堂と光村図書出版は「二」ですね。日本文教出版は「一」、横棒1本の「一」だけと、こんなふうです。やはり「一 二」と二つ書くのは、初めとしてはちょっと難し

いかな。「十」というのも縦と横を書くのでちょっと難しいかなと。どうかかなというところ  
です。

それから、3年生の毛筆の初めのところで、学校図書は穂先の動きがわかる写真という  
のが、高学年になってくるとちょっと少ないかなと。

三省堂は、姿勢、筆の持ち方がイラストだけなのですが、写真のほうが分かりやすいと  
思います。それから、穂先の方向を時計の針で示すということであらわしているのですけ  
れども、ちょっと時計の針というのはわかりにくいかなと思います。それから、筆使いの  
説明のときに朱色と灰色を使って書き方を示すと、そういう文字がみんな各者出てくるの  
ですが、その朱色と、それから茶色っぽい色がまざったような色がどうなのかなと思いま  
した。

光村図書出版につきましては、イラストが多く出てくるのですが、ちょっと余計だと思  
うようなところがあります。例えば2年生、18ページの言語の「言」、「言う」という字の  
下で、猫と犬が左右から引っ張っているというような絵があるのですけれども、これはちょっ  
と意味がわかりづらいと思いました。犬とかで字の形を説明しているというのが、ちょっ  
と子どもっぽいのではないかなと思いました。それから、光村図書出版についてなのですが、  
6年生で「旅立ちの朝」という5文字を2列に書くというのがありまして、この5文字  
を2列というのがちょっと難しいのではないかなと思いました。ただ、文字の歴史が載っ  
ているというのは、とてもいいのではないかと思いました。

それから、東京書籍につきましては、3年生の裏表紙のところに高校生の書道パフォー  
マンスの写真が載っているのですけれども、「身のまわりの文字を探そう」というテーマに、  
ちょっとそぐわない感じがしました。それから、さっき三省堂で色の話をしたのですけれ  
ども、指使いの説明の朱色の文字の色は、東京書籍はきれいで、いいと思いました。あと、  
5、6年ではいろいろな知識が盛りだくさんに入っていて、各ページにも細かく文字  
とか書き方などについての注意書きや知識なんかが出てきまして、大変知識欲をそそっ  
ていいかなと思う反面、ちょっと盛りだくさんすぎるかなという感じもいたしました。

それから、教育出版ですが、これも姿勢などについてイラストであらわしているのです  
が、写真のほうがいいなと思ったところです。それから、3年生の、例えば7ページなん  
かで、筆圧の説明のところですが、動物の絵が一緒になって邪魔という感じで、動物のほ  
うに目がいってしまって肝心の目の印象がぼやけている感じがします。あと、ページに対  
して全体にちょっと文字の数が多くて、見づらい印象がありました。それと、6年生の「旅

立ちの時」という、さっき「旅立ちの朝」というのがありましたけれども、教育出版は「旅立ちの時」なのですが、この5文字をやはり2列で書くというのがちょっと難しいかなと。

日本文教出版につきましては、3年の毛筆のところで、道具の使い方とか姿勢が写真入りで、丁寧に説明されているのがいいかなと。それから、筆使いの朱色の濃淡の色もいいのではないかと。それから、その色の濃淡で筆先の使い方の様子がうまくあらわされているのではないかと思いました。巻末に「何年生で習う漢字」というコーナーがあるのですが、1年から6年までの筆順が載っているのですね。ほかの会社のは字に赤い色で番号が入っているだけでなかなか筆順はわかりにくいのですが、この文教出版のは1画ごとにたくさんの、1画ずつふえていくという形でたくさんの図が載っているという形なので、筆順を覚えるのに大変便利ではないかと思いました。あと、目次が見開きでわかりやすいということとか、「学習の進め方」というページがあるということ。それで、巻末に「1年間のまとめ」もあるということで、子どもにもわかりやすく、1年間展望ができるのではないかと。

というようなことで、比べた中で、私としては日本文教出版がいいのではないかと思うのですが、現行の東京書籍も悪くはないので、ちょっとそこはほかの方のご意見も伺って、もっとほかに教科書を推す方がいれば、そちらの意見でもいいとは思っていますが、一応、個人的にはそんなところです。

小林委員長

では、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

書写についても、どういう観点で判断するか本当に難しかったです。先ほど大島委員が言われたように、十字リーダーがついているか、ついていないかというのは、やはり書いていく上において、ますの中に示した部分については、ある程度ついていたほうが実際にはいいのだろうというふうには感じました。ですから、やはり十字リーダーがあまり入っていないような教科書ではないほうがよいのかなと思っています。

それ以外に、実際に文字数とか、配列とかという考え方で見ると、やはり6文字書きとか5文字書きという配列も、バランスがとりにくいと言われているとおり、やはりとりにくいのではないかなと思って、そういったところから、そういう文字が出てくるのは教育出版と三省堂がそういうような形になっていました。

それと、教育出版のところもですけれども、十字リーダーが入っていないということ。三省堂も、この文字バランスがちょっと教育出版と同じように5、6文字とか、三省堂自身には、何か基本の記載が少ないような気がしますし、先ほど言っていた時計の針を筆で示すというのも違和感を感じました。やはり指導内容の示し方が、イラストという形よりは写真のほうが本当に望ましいのかなというふうに考えておりました。

今まで使っていた本はどうかというと、お手本が左に書いてあって、解説が右に書いてある。それで、色使いが非常にカラフルなのですけれども、こんなにカラフルである必要があるのかなという気もしますし、教科書のサイズが一つだけ違うということがあります。それで十字リーダーもちょっと少ないのですね、低学年のところでは。

光村図書出版と日本文教出版はどうかというと、大島委員と似ていて、日本文教出版はいいのではないかと思っているのです。姿勢の扱い方とか筆の扱い方の説明が非常に丁寧であるとか、説明とか学習の進め方がいいのではないかなというふうなイメージは、確かに読み取れます。

光村図書出版については、国語が光村図書出版になると、リンクしている部分があるので、こういった同じ国語の観点から見ると使いやすいかなという気はするのですけれども。それ以外の決め手はないのかなという感じがします。

そういう意味では、巻末に何年生で習う字がついているとか、子どもたちにわかるように指導が書いてある日本文教出版がいいかなという感じです。

小林委員長

では、次、田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

書写につきましても、やはり小学校の時代に、学習指導要領の改訂の趣旨である、手紙を書いたり、記録を取ったり、日常生活に役立つような、そういう基礎をきちんと学んでもらいたいと思います。特に、今、筆や鉛筆で字を書くということが、なかなか習慣として、大人になるとなくなりますから、子どものうちからしっかり日常生活で実際に字を書くということを学んでもらいたいと思っています。

そうした観点で見ると、6者あるわけですが、どの教科書も学んだことを日常生活に生かすという視点で構成されている、そういう印象はありました。ただ、何人かの委員からもありましたように、現在使っている東京書籍については、やはり版が大きいということが非常に気になります。特に先ほども言いましたように、若手の教員が多くなって

きていて、毛筆の指導というのは非常に難しい中で、机の上にならぬ道具が並ぶ中で教科書も置くというと、やはり扱いにくかったり、指導しにくかったりするのではないかなと思いました。

それで、全体的な印象は、今までの委員の方々がお話しになった内容と私も同感です。ですので、やはり一番若手の教員や毛筆指導がなかなかしにくい、不得意だとする教員にとって丁寧に入門を教えたり、それから学習の仕方を順序立てて教えるということでは、日本文教出版が一番教えやすい教科書になるのではないかなと思っています。

以上です。

小林委員長

それでは、最後に私の意見を申し上げます。先ほど私が継続でもという話をしたのは、決して変えないのが望ましいということではございませんし、むしろ私が言ったのは、いわゆる4教科の内容面ということですので、特にこういった実技的な書写であるとか、地図であるとか、実技教科に関しては比較的に変えてもそんなにはというふうには思っておりますので、それは柔軟に、かつ、いわゆる内容教科の4教科に関しても、別にいいものがあれば、もちろん変えてよいと思っておるところです。

それで、書写に関しては、私も今までの各委員からのお話とかなり重複するところがあります。どれもそれぞれ工夫されていて、いいものができていると思うのですが、いろいろな観点というか、総合力という点では、やはり日本文教出版が一番バランスがいいのかなと私は感じました。先ほど大島委員からあった最後の筆順の部分ですね。これは書写の本質的なものではないかもしれませんが、書写を学ぶ一つの大きなポイントは、やはり筆順ということがあろうかと思っておりますので、そういう点では重要なこと。この中で、いわゆる書く道具に関して解説があるのですね。細かいいろいろな種類を、鉛筆であるとか、筆であるとか、小筆であるとか、そういったものを丁寧に扱っている。それから、これも先ほどどなたかから話がありましたが、非常に目次が見やすく、これは田辺教育長もお話があったように、若い先生がこれを使うに当たっても、目次が明確であるというのは非常に活用しやすいものなのかなと思いました。

あとは、これも渡邊委員からもお話がありました光村図書出版に関しては、やはり国語との関連性が見られますので、特に先ほどの活動の流れ、フローチャートに関しては、多用はしていないのですが、要所、要所に国語と書写との連動が見られますので、私も最終的には、日本文教出版か光村図書出版かどちらかがよいかなというふうには思っていると

ころです。

それでは、ほかに何かご意見はございますでしょうか。

田辺教育長

先ほどちょっと言い忘れてしまったのですけれども、調査研究会からの意見の中で気になったところが1点ありまして、東京書籍の教科書ですけれども、色使い、カラーの使い方に、特別支援に対する配慮が欲しい。つまり、色覚の点で配慮が欲しいというような意見がありました。確かに色使いで、例えば3年生の8ページ、10ページ、22ページなどには、ちょっとやはり私が見ても見にくいなという印象がありましたので、つけ加えさせていただきます。

小林委員長

ありがとうございます。先ほど大島委員からも、カラーの使い方ですね、そういったことも話がありましたし、今、田辺教育長からも特別支援の観点からいかなものかというようなことがございました。

ほかにいかがでしょうか。ほかにご意見はよろしいでしょうか。

大島委員

国語との連動ということについて、国語で、今この単元をやっている、書写をやるというときに連動というのはあるのでしょうか。

指導室長

書写の教科書と国語の教科書が同じでなければいけないということではないです。ただ、私が教員時代にいたところでは、確か同じ会社だったと思います。そのよさは、先ほど委員長も少し触れられましたが、教科書で、例えば手紙の書き方みたいなのが出てきたときに、その同じようなテーマについてとか、また、この作品を受けて何かを書きましようというときに、書写の教科書が連動しているというときには学習の流れとしてはスムーズにいく部分はあるのかなとは思いますが、そうでなければいけないという決定的な理由ではないと思います。

小林委員長

ほかにいかがでございましょうか。

実際に国語を出していないくて、書写を出していると、そういう会社もあるわけですね。そうすると、一緒になければならないということはないし、よりメリットを求めて、あえて一緒にということもあり得るということですね。考え方として、両方あるということ

すね。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

今の各委員のご意見を伺っていますと、全体的には日本文教出版のご意見が強いようですけれども、いかがでしょうか。それでは、書写については日本文教出版でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りいたします。ただいまの協議の結果、書写については日本文教出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、書写については、日本文教出版を採択候補とすることに決定いたしました。

では、教科書を入れ替えますので休憩をいたします。

午後7時50分休憩

午後7時52分再開

小林委員長

それでは、再開いたします。

次に、社会についての協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず、大島委員、お願いいたします。

大島委員

社会につきましても、作業的、それから体験的な活動を重視して、問題解決型の学習を進めるということが求められております。それから、調べたことをまとめ、伝える、発表的活动、こういったものを重視しているわけでございます。

3、4年生は主に地域、自分たちのまちについて調べるところから始めて、だんだん国全体のことを知ろうというふうに広げているというところでございます。5年生が主として地理的分野、6年生が主として歴史的分野と政治、公民的分野と、大体こんなふうになっています。

問題解決型学習というのが今非常に重視されているわけですがけれども、そのために学習の進め方を教科書を通じて児童に指導するというような役目がありまして、その点では、例えば光村図書出版は、ホップ・ステップ・ジャンプということで、「見つける 調べる まとめる」というようなことを表示していますし、日本文教出版も3、4年生は初めに学習

の仕方というのを指導するコーナーがありまして、「まちたんけん」というのを例に、「深める」「まとめる」などということ指導しています。ただ、日本文教出版は、3、4年の初めはあるのですけれども、後の5、6年になりますと、初めにそういう学習の進め方というようなことについて指導するページはありませんで、後での振り返りということはあるのですが、初めの学習の仕方についての説明はないということです。

教育出版と東京書籍は、初めに進め方についての丁寧な指導のページがあります。教育出版は、例えば5年生のところで、教科書の使い方というページで学習の進め方を示しておりまして、20ページのところでは学習問題というふうにしまして、「まとめる 深める」、それから6年生の12ページのところにも「まとめる 深める」というような、そういう示している単元があるのですけれども、全ての単元でこういう示すページがあるわけではないので、ほかのないところについては、教師のほうで補う必要があるのではないかと。それから、教育出版の6年生について言いますと、武士の社会のところでは、「学びのてびき」という囲みなんかがあって、学習のヒントというようなものが示されています。

光村図書出版は、やはり6年生の、例えば聖徳太子のところですが、「学習問題」という囲みがあって、次のページからホップ・ステップ・ジャンプと、調べようとか、深めようとかと、そういうふうにつながっているというような構成になっております。あと、光村図書出版は貴族の食事とか、正倉院の楽器の写真、これはいずれの教科書でも出ているのですけれども、ほかの教科書に比べるとちょっと小さい。特に食事なんかは、内容がちょっと小さくてよくわからないという感じがいたしました。「武士の社会」という単元でもやはり学習問題の提示があって、その後、ホップ・ステップ・ジャンプということになっております。ただ、そういう示している単元もあるのですけれども、全体的な印象としては非常にすっきりしていて、情報量が少な目なので、教師の補足が必要な部分が結構あるのではないかという印象です。

東京書籍については、初めに学習の進め方というページがありまして、「つかむ」「調べる」「まとめる・生かす」と、こういうのが各単元に必ずあるようになっております。6年生についても、学習問題について「予想しよう」「学習計画を立てよう」「調べ方」「まとめ方」とか、フローチャートでまとめ方なんかも示してあったりしまして、たとえ的に言うと、手取り足取りやることを教えてくれるというような感じの大変丁寧なつくりになっているように感じました。ですから、もしかすると、新人の先生なんかには問題解決型学習が進めやすいのかなというような気がいたします。例えば「武士の始まり」という単元を

比べて見てみましても、各者とも学習問題の提示は出ているのですけれども、東京書籍が一番丁寧な感じがいたします。

あとは、選択課題というのがあるのですけれども、二つあって、どちらかを選んで授業をすることができますというようなのがありまして、例えば5年生ですと、低い土地のくらしと高い土地のくらし、どちらかを選びなさいとか、6年生ですと、子育て支援の願いを実現する政治と震災復興の願いを実現する政治、どちらかを選びなさいというような、そういうつくりになっているのですが、選択できるということが、東京書籍と教育出版では目次のところで表示がありますので、どれとどれを選べるのだなというのが目次を見ればわかるようになっていきますけれども、日本文教出版は、目次のところで選択マークがあるものは選択できますよというふうには書いてあるのですが、どの単元がその選択なのかというのが、そこには、目次に書いていないし、中を見ないとわからないというふうになっていまして、光村図書出版は全くそういう表示はないというふうになっております。

あと、巻末の年表をちょっと比べてみたのですけれども、日本文教出版のものはすごく長いのです。自分の年表を書く欄というのがあるのですけれども、これはどうも私の考えでは、自分の年表というものは不要ではないかというふうに思いました。光村図書出版の年表は写真が入っているのがすごくいいなと思いました。教育出版のものは、年表が折込みの裏に隠れているのでちょっとわかりにくいということと、色も単調な色なのであまり見やすすかないかなと思うのですが、ただ、地図が載ってまして、日本地図で出来事が起こった土地を示すという地図がついていると。これはなかなかユニークで大変いいのではないかと思いました。東京書籍の年表は、紙も厚くて丈夫ですし、写真入りですごく見やすいですし、色もいいですし、日本の出来事、世界の出来事、主な人物と、こういうふうに欄が分かれていて大変見やすい。年表は東京書籍のものが大変いいかなと思いました。

それで、全体的に見てなののですけれども、今言いましたように、東京書籍のものはすごく、「つかむ」「調べる」というふうに学習のやることを丁寧に書いてありまして、これをいいと見るかどうかという問題はあると思うのですけれども、あまり教科書に丁寧に書いてしまうと、先生の出る幕がないみたいなことになるのかどうか、先生がやりにくいのかどうか、そういう点がちょっとよくわからないのですけれども。ただ、私としては東京書籍のものが、やはり一番学習を進めるのにやりやすいのかなということで、東京書籍がいいかなと思いました。

小林委員長

よろしいですか。それでは、続いて渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

社会ですので確かに歴史とかそういうこともありますけれども、今、社会ということで教材が新しいものを使っているかどうかというのは、注目をしました。そういう意味では、日本文教出版がいろいろと年表その他等も新しいものを使っているということについては、よいのではないかと感じておりました。

それで、3. 11があってから、防災に対する扱い方というのは、やはり一つのテーマかなというふうに考えております。そういった意味では、各者それについての記載は非常に多いのですが、東京書籍は防災を教育の視点から見ている観点が多いということです。田辺教育長も先ほど教員がある程度進めやすい授業の考え方ということでは、東京書籍の「つかむ」「調べる」「まとめる」とか、そういうような記載で学習を広げていくとか、「つかむ」「まとめる」「生かす」という問題解決型の児童への指導の進め方というのは、やりやすいのではないかなと感じております。光村図書出版も書き方が統一されているという形で見ると、これも使いやすいのかなと感じております。防災の観点とか指導のしやすさとか、そういう点について言うと、確かに東京書籍はよいのではないかという気はいたします。

もう一つ、北方領土問題とか、竹島や尖閣諸島の問題というものは、ニュースでも話題になっているように、どういうふうに取り扱っているかということに注目しました。それで、コラムで竹島について書いていて、日本は強く抗議をしているというような表現をしていたのが光村図書出版ですね。それから尖閣諸島についてはほとんど同じ内容で、それで北方領土についても大体同じ内容だと思います。東京書籍の本は、バランスよく、うまくできているのではないかなというイメージは、私は持っております。

それで、今の観点から、進めやすさということを考えると、あとは光村図書出版ですかね。教育出版は現行で使われているのですが、いま一つ教育の防災に対する内容が少ないですし、そういった点で、やはり東京書籍か光村図書出版がいいと思います。でも、先ほど言ったように、光村図書出版は見ていると、資料が、若干年次が古いのですね。さっき言った日本文教出版は最新版を使っているのですが、やはり東京書籍が若干いいかなという気はしています。

小林委員長

それでは、高木委員、続いてお願いいたします。

高木委員

まず、現行の教育出版の「小学社会」ですけれども、3、4年の上というのが、イントロのところで、「まちたんけん」の単元があるのですが、教育出版はなぜかほぼほぼこれ1冊、どこもかしこも横浜市なのです。横浜市が悪いわけではないのですが、横浜市というのは都会なのですけれども、意外と、「まちたんけん」だと、川の周りとか、工場が集まっているところとか、駅の周りとか、土地の高いところ、中野区にはないところばかりなのです。そうすると、高学年になってくれば、そういうのもほかの事例として客観的に把握できてくると思うのですけれども、やはり生活からの流れでいうと、なるべく共感できるようなところで、別に中野区を取り上げてということではないのですが、ベターなのかな。後のほうでも横浜のシウマイとか出てくるのですけれども、現行で使っているのも、悪いということではないのですが、使いやすさについては疑問が若干あります。あと、冊の構成で5年の下が異常に薄いのです。68ページしかないので、何かそんなに薄いのだしたら分ける必要はないのではないかという気がするので、何かそこら辺のバランスもちょっとどうなのかなと思いました。

次が、東京書籍の「新しい社会」ですが、3、4年の下で、例えば日本地図を広げてということで、都道府県の形を抜き書きしてみたり、あと5年の下で、情報化した社会と私たちの生活、これからの社会というところで、直接コンピュータは使わないまでも、こういった情報という観点はすごく重要だと思うのです。あと、一番これはいいなと思ったのは、6年の上のところで、「まとめる」というところで、自分が徳川家光になったつもりで、家康に自分が行ったことを報告の手紙を書こうというのがあるのです。特に東京書籍の場合は、「つかむ」「調べる」「まとめる」ということで、そういう学習の段階の展開がすごくまいなということで、これはちょっと感心しました。

次に、光村図書出版ですが、3、4年でいうと、ちょっと構成がシンプルで情報量が少ないのかなと思いました。上のほうの学年になると逆に多くなってきますのですけれども、段階を踏んでいると言えれば踏んでいるのですけれども、やはり社会という教科の性質上、ある程度資料は出したほうがいいのか。あと、イラストがちょっと独特という印象を受けました。あと、例えば3、4年の下のほうで、地域に尽くした人々というところで、安曇野の話があるのですが、いきなり拾ヶ堰が命の水と呼ばれているのはなぜかというふう

な展開があるのです。確かに地域に尽くした人々ですから、そういう展開もあるのかなと思うのですが、3、4年のところでこれをやったときに、果して中野のこの都会の子どもたちが実感を持ってスッと入っていけるのかなという若干の疑問があります。また、中で、昔の測量の方法というのを紹介しているのですが、まさに伊能忠敬の時代の測量の方法で、今はトータルステーションという機器を使って、コンピュータとレーザーの測定が組み合わさっていますから、ポッとボタンを押すと、自動的にCADできてしまうのですね。原理としては確かに重要なかもしれませんが、ただ、そこで測量の展開をしても、あまり今の子どもは測量すること自体を見ていないので、わかりづらいのかなと思います。

最後、日本文教出版ですが、ここも3、4年のところの「まちたんけん」のところで、「学校の屋上からまちを見てみよう」というのがあるのですが、私も何校か小学校の屋上に立ったことが、子どもの学校以外でもあるのですが、住宅が広がっているばかりで、遠くにスカイツリーが見えるぐらいで、例えばそこに駅が見えるとか、商店街がという状況ではないのですね。そうすると、ちょっと生活から上がってきたときに、ここは使いづらいなという気がしました。あと、部分、部分で字が小さいところがあるので、3、4年生のところではもうちょっと字を大きくしたほうがよかったかなと思います。ただ、逆に言うと、5年の下のところで、情報のところをきちんと扱っていたり、あるいは自助、共助、公助というのをしっかり展開をしているのですが、主に生活からのつながりというのが私が子どものころはなかった展開なので、このところがやはり各先生も一番工夫されるのかなと思いました。

それで言うと、比較的、東京書籍が、その後の学習の展開ということを含めても、社会に関しては、私はここがいいかなと思いました。

小林委員長

それでは、次に田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

社会については、1、2年で生活ということで、3年生になって初めて社会という教科を学ぶということになりますので、入門編で地域のことを調べるということなのですが、そういう社会的な関心をいかに持たせるかというような観点で、それぞれの教科書を見ました。

今使っている教育出版ですけれども、各委員からもありましたように、字が小さくて、イラストの印象が弱かったりして、教師が引きつけるというような教え方が、ちょっとほかの教科書に比べてできにくいのではないかなということと、今、高木委員がおっしゃったように、決定的に違う、違和感を感じるのは、まちのイラストとか、それから紹介で、海の近くの横浜市ということで、中野とは全然違う印象の場面が幾つもありましたので、ちょっと難しいのではないかなと思いました。

あと、日本文教出版ですけれども、若手の教員がこれからこの教科書を使ってというところの観点で、この教科書の仕組みというのが、3年生の3ページにあるのですけれども、ちょっとわかりにくいのかなということと、それから、私たちの住んでいるところというのが姫路市を例にとっていて、中野とは大分違っていて、違い過ぎるところが多いので、ちょっと向かないかなと思いました。

東京書籍と光村図書出版については、なかなかいいなというふうにも思っているところ です。

特に光村図書出版については、渡邊委員からお話がありましたように、6年生の143 ページで近隣諸国との関係を詳しく解説して、日本とロシアでは北方領土について、北方領土の返還を求める交渉を続けていることとか、中国では尖閣諸島について、日本の領土である尖閣諸島について、中国は領有を主張していること等々をきちんと書かれていて、印象としてはこういうふうに書かれているのはいいなというふうに思っているのですけれども、高木委員がおっしゃったように、写真やイラストにちょっと違和感があったり、写真やイラストも結構多く用いられているのですけれども、それに捉われてしまって、何を学んでいるかがぼやけてしまうのではないかなということを感じました。

東京書籍ですけれども、全体を通してとてもわかりやすく、特に目次のところでいろいろな人や写真を使っていたり、目次の次のページのところで、これは3年生ですけれども、イラストでまちを俯瞰<sup>ふかん</sup>して、目当てをきちんと示して、その後詳細に入っていくというような段階を追った指導があります。まちの周りについても、中野の近いまちの様子が描かれていて、教えやすいのではないかなと思いました。ただ、ドラえもんとか、ドラミちゃんとか、のび太君がふんだんに出てきて、その辺がちょっと気になるのではあるのですけれども、お話ししたように、教員が指導していくには、手順を踏んで教えていくという観点から、教えやすい教科書ではないかなということで、どちらかといえば東京書籍かなという印象です。

小林委員長

それでは、最後に私の意見を申し上げます。やはり問題解決型の学習という点では、確かに東京書籍が非常によく書かれてあるというふうに思いました。現行は教育出版ということで、要所、要所にはいい部分があります。例えば江戸時代の身分制度で今日に至る人権上の課題なんかを一番的確にしっかりとあらわしているのは教育出版かなと思ったのですが、でも、これはある意味では部分的なよさという部分ですので、全体を通してどうなのかなという、確かにバランスという点では東京書籍がよいのではないかと思います。

もう一つ、私は、今回見て非常に感じたのは、いろいろご意見がありましたけれども、光村図書出版の社会に関しては、私自身の個人的な見解では、完成度はまだ低いかもしれないのですが、中にイラストで子どもが登場してきて、考えさせる吹き出しが一貫してあるのですね。これが非常にポイントを、的を射ているというか、なぜ幕府がこれだけ長く続いたのかとか、非常に若手教員にも対応しているし、また、中堅、ベテランの先生も深めていけるというか、恐らく現場としては使い勝手は、なれていないのでどうかなというふうに首をかしげられるかもしれませんが、本当の今の思考力、判断力、表現力とかを考えたときに、実は非常にすぐれている、今後の学力をさらに考えていったときに魅力があるかなと思いました。

そういう点では、総合力では東京書籍。それから、現行で使っている継続性を考えると教育出版、それから、これからの指導のあり方を考えたときの光村図書出版と。日本文教出版については、いずれもある程度のものを満たしていると思いますが、もう一つ特徴的なものということでは弱いかなと感じました。

私のほうからは以上でございます。

それでは、ほかに意見がありましたらお願いします。

渡邊委員

ちょっと言い忘れたことがありまして、3、4年生の中で、東京書籍について、もう一ついい点というのは、節水とか、節電とか、資源の有効利用についての記載が、ほかの教科書よりも多く書かれている。これからの社会については、そういったものが大切なのかなと。それとあと、特徴的なのは、6年生の人権についての表現が目立って多く書かれているので、人権問題というものについて力を入れているという点では、東京書籍の特徴かなと。先ほどの、領土、平和ということについての記載も若干多いのですけれども、特に目立って多いというわけではないのですけれども、そういう点では、明らかに人権問題を

多く取り上げたりとか、節電、節水とか、エコノミーとか、そういうことについての記載が多く書かれているのは、東京書籍の特徴かなと思って感じておりました。

小林委員長

ほかにご意見よろしいでしょうか。

各委員からのご意見を総合しますと、やはり全体的なバランスとしては、東京書籍というご意見が強いようでございますが、いかがでございましょうか。社会については、東京書籍ということでもよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、社会については東京書籍を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、社会については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

では、教科書を入れ替えますのでここで休憩をいたします。

午後8時21分休憩

午後8時22分再開

小林委員長

それでは、再開いたします。

次に、地図について協議を行いたいと思います。各委員から順にご意見を伺いたしたいと思います。まず、渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

地図ですけれども、一目でわかるのが、大きさが絶対に違うということです。同じ地域を見て、大体スペース的には同じように書かれているのですが、東京書籍のほうが少し大きいので、地図に関しては大きいほうが見やすいかなという感じはするのです。それで、すごく迷っているのですけれども、地図の中では大きいほうが見やすいのですけれども、細かいことまで書いてあるのは帝国書院なのですね。これで物すごく調べようと思うと帝国書院がいいのですけれども、学習的にポイントを押さえてということであれば、字が読みやすいのは東京書籍です。調べやすさということでは、これは本当に甲乙つけがたい、どちらを選んだらいいのか難しいのですけれども、東京書籍のほうが、大きく表現されていて、見やすく、大きいから細かく書いてあるかというと実際は細かく書いていなくて、

ただ、すごく見やすさとか、調べやすさに観点を置いていると。けれども、内容は帝国書院のほうが細かいと思います。

小林委員長

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

東京書籍の地図については、確かにちょっと大きいのですけれども、実はちょっとお借りして、うちの6年の子どものランドセルに入れてみたのですけれども、入ります。うちの子のランドセルは6年前に買ったので、いわゆる今の新しいものの大きい版ではないのです。普通のランドセルなので、この地図に変えたからといって、ランドセルに入らないということはないようですね。ただ、机の中に入れたときに、ちょっとかさばるといっているはあるかもしれないです。

渡邊委員もおっしゃったように、大きいから見やすいのかということ実はそうでもなくて、ポイント、ポイントで見ていくと、帝国書院のほうが見やすいところがあるのですね。例えば55、56ページ、東京書籍も同じように55、56ページのところで、アジアのところが出てくるのです。うちの学生の基礎ゼミの時間で、TPPの話をして、TPP12か国がわかるかといったら、結構できない子がいたのですね。私もブルネイがどこかというのが、実はしっかり頭に入っていなかったのです。マレーシアも、旧ボルネオ島とマレー半島にあるというのは知識では知っているのですけれども、そこが、では、具体的にどうだと地図を見せられても描けないのですよ。そうすると、帝国書院のほうが、ブルネイがぱっと見てわかるのですね。東京書籍のほうは、よく見ないとちょっとわかりづらいので、こういう細かいところで帝国書院がよいのではないかと思います。

逆に言うと、例えば湖の大きさの順番なんかでいうと、逆に東京書籍のほうが細かかったりするので、やはり甲乙つけがたいですよ。両方ともいい地図だと思いますが、どちらかと言えば帝国書院かなというところですよ。

小林委員長

それでは、続いて大島委員、お願いいたします。

大島委員

まずは表紙でいうと東京書籍のほう而立派で、洗練されていていいと思うのですね。紙がつるつるした厚紙です。一方、帝国書院のほうは、小学生の地図帳と書いて、絵があって、というところなのですけれども。あと、東京書籍のほうは、初め開いたところで日本

列島がぱっと全部見られるというのがすごくいいなと思いましたし、それと、東京書籍は、この前の版では地図の縮尺が各地図によってばらばらだったのですけれども、それは今回は縮尺を統一してきましたので、そういう点はよくなったと。

なのですけれども、私ももちろん東京書籍の地図で十分にいいと思うのですが、やはり結論的には帝国書院のほうがいいかなと思うのですが、その理由というのは、一つは色合いなのですね。東京書籍は、色合いが平野が緑で山岳部が茶色と、そういうことはどちらの地図も同じなのですけれども、やはり比べてみて、地図の高低といえますか、平野の部分と山の部分というのが、帝国書院のほうははっきりわかりやすいというのがまずあります。それと、地名などの表記が、東京書籍のほうは、全体として字が大きいのと、あと地図の中に産物がいろいろ出てくるのですね。ミカンとか、リンゴとか、魚とか、そういう情報が入っていることで、この地形というものというか、あと、主な地名という、知りたい地名とか、それが目立たなくなってしまうという印象があると。

帝国書院のほうが見やすいと。色も、濃淡もわかりやすいという点ですかね。あとは、鳥瞰図が帝国書院のほうはついているのがよくて、特に東京の鳥瞰図がついています。それから、東京の島、大島とか、そういう島までの距離も、帝国書院では距離もわかるような地図が出ています。なので、東京書籍のほうは東京の全体図という地図はないので、東京で学ぶ児童にとっては、東京が出ているのがいいのかなという点があります。

あと、東京書籍のほうは、何か人物とかイラストが多くて、特に地図の海のところに子どもがよく出てくるのですけれども、何か吹き出しがあるのですが、すっきりしているほうがいいなと思います。

あと、国旗の扱いですけれども、帝国書院は後半のほうの世界地図があるのですけれども、そのページに、そこに載っている国の国旗がそのページにあるのですけれども、東京書籍のほうはそういう扱いではなくて、一番最後のページ、世界全図というところに各地域ごとに四角囲みでアジア、ヨーロッパとかというので国旗が出ているのですが、その国が出ていくごとに分かれて、その地図の中で出ていくほうがわかりやすいのかなというような気もいたします。

どちらもいい地図ですけれども、帝国書院のほうは、私個人的にはいいかなと思いました。

以上です。

小林委員長

それでは、次に田辺教育長、お願いいたします。

田辺教育長

私も大きさが気になりました。確かに東京書籍は大島委員のおっしゃるように装丁も立派なのですけれども、児童の意見のところに、高学年の子どもさんで、お道具箱に入る大きさの教科書がいいという意見があって、多分入らないわけではないと思うのですけれども、なかなか取り扱いというのがちょっと大変かなと思いました。

それと、ほかの委員の方の意見と重なるところもあるので、重複しないところでお話をさせていただくと、関東地方、特に東京の扱いが、東京書籍は3ページ、帝国書院は4ページで、なおかつ首都東京というのが、東京書籍は3ページ分を使って折り込みで大きく出ていますけれども、23区が縦に割れているというので、中野区が半分に切れていて、右のほうは出ていないのですね。ただ、一方、帝国書院はきちんと「東京の中心部」というふうになっていて、中心部の中でちゃんと中野区も入って、杉並区まで入っていますので、私としては、やはり子どもに教えるのに中野区をきちんと表現していただきたい、帝国書院とさせていただきたいと思います。

以上です。

小林委員長

最後に私の意見を申し上げます。今各委員から出たのと同じような意見を私も持っておりまして、甲乙つけがたい部分です。大きさ、見やすさという点では東京書籍がいいと思います。最初の1、2、3ページのこの臨場感というのは、恐らく子どもにインパクトを与えるのかなと思います。恐らく、このいろいろな調査研究その他報告などを見ても、やはり帝国書院の今までの長年使用し続けてきたという使い勝手のよさといいますか、なれというのでしょうか。やはり見やすさという点があるのかなというふうに思います。

ただ、私はこれはなれだと思ひまして、どちらかを続けて使っていると、それが見やすくなってくる。なぜならば、この地図の約束事、平野が緑で、山間部が茶色なのですが、宇宙から見れば、色は逆なのです。ですから、むしろ山間部のほうが緑で、いわゆる都市部のほうは茶色だったり、もっと褐色だと。まさに、これは今まで見ていたから、なれているというだけの話であって、私はそういう意味では、現場がそうでも、あえて新しいものを挑戦する、これはいわゆる地図という機能ですので、そういう点での価値があるのかなというふうには思っているのです。

ですから、今お話を伺っていると、皆さん、どちらかという、両方いいのだけれども、

帝国書院のほうに分があると。私は、逆にちょっと東京書籍のほうもいいなというように思っています。

それでは、他にご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

渡邊委員

指導室長にお伺いしたいのです。大島委員も、この地図の中に特産物みたいなものをこういうふうに入れ込んであると。東京書籍のほうが、それをちょっと強調しているのですね。これは試験勉強に出てくるので、特産物というのは、どこでどういう物が取られたかとか、そういうものが試験勉強の中に出てくるから、そういうものでは調べやすく、帝国書院も書いてあるのですけれども。ただ、二つの地図を比べると、結構違うものを書いてあったりするのですね。結構、そういうものというのは違うものなのですか。北海道のサケ、イカ、タラ、昆布、カニとかいって、みんな一生懸命覚えましたがけれども、そういうふうには、北海道はそういう言い方では覚えていたのだけれども、この地図になると、実際に絵を描いていて、細かくかいていて、リンゴなんかでも幾つも点線で描いてあって、その産地までいっているのですけれども、今はそこまで教育というか、北海道では何が取れるとかではなくて、もう地域名まで覚えるということですか。

指導室長

社会の場合には、その資料から何を読み取るかというようなところの能力を開発するという目的があります。そうしますと、例えば地形図だけで、そこから読み取れること。それから、今委員がおっしゃったのは、特産物とかそういうものの地図というのはまた別途あるわけですね。それを重ねて見たときに、では、この地域はどういう特徴があるということを読み取るということが必要になってきますので、一つの中にたくさんの情報を盛り込むというやり方も方策としてはあるのかもしれませんが、社会の学習ということを考えてときには、それぞれの、これはどういうものをあらわした地図なのかということ、きちんとそこで子どもたちが読み取る力を。それで、二つ、三つの資料を総合的に合わせると、そこから何が読み取れるのかというところが、子どもたちの力を伸ばしていくところだと思います。

渡邊委員

東京書籍の地図で、こういった資料集を見たときに、この最後の地図ではない部分のところを見ると、大体は似ているのですけれども、こういう山とか、こういった地表とかは結構見やすいのですね。こういうものというのは、あまり地図としては使わないのですか。

#### 指導室長

資料というのは、やはり見やすさ。そこから、いろいろな解説がなくても読み取れることが大切ですので、例えば当初の冒頭の3ページの迫力というのは、非常にインパクトがあると思います。

#### 渡邊委員

特にこの東京書籍は、自然の気候とか航空写真とかが出ているのは、そういう意味ではちょっと新しいのですね。ただ、地図としては、私も多分帝国書院で授業をしたと思うのです。

世界を見ると、東京書籍は、世界は同じようなグリーンとかシルバーの書き方をするのですけれども、帝国書院はこれを結構色分けしているのですね。実際に、色分けというのは、地図を見たときに、この切れ目の線をはっきり見ないと、色で見分けられない人は線で見分けられるような工夫はしていると思うのですけれども、実際どうなのかなど。そういう意味では、帝国書院のほうがカラフルなのですね。東京書籍の地図を見ていくときに、反射がないのですね。反射のあるのは見にくい。そんなところまで、今は配慮してきているのかなという感じは若干思いました。

#### 小林委員長

ほかにご意見はいかがですか。よろしいですか。

#### 大島委員

色のことでは、委員長がおっしゃられたように、色はなれというのがすごくあると思います。私なんか帝国書院のこの地図の緑と茶色の山と平野、これがすごく見やすいと思うのは、自分も小学校、中学校とこの地図を見てきたからであって、そういう色なんていうのは今の子は初めて見るわけですし、そんな我々の昔のなれとかは関係なく、新しい色でいっていいと思うのです。

ただ、やはり特産物とかというのは、それは資料集で見れるのであって、基本となる地図というところからすると、例えば東京書籍の39、40ページに、関東地方の地図とか、その前後に、ほかの地方の地図なんかもあるのですけれども、リンゴとかメロンでしょうか、何かそういう特産物みたいなのがすごくぱっと目立って、地図としてはちょっと見にくいとか。一方、帝国書院のほうはあまりそういうのが目立つようには出ていまして、基礎的な地図というふうになっているので、やはり特産物などは、また資料等で見て、この基本的な地図というところからすると、やはり見やすいほうがいいのではないかなという

ふうに感じたところです。

小林委員長

ほかによろしいでしょうか。では、高木委員。

高木委員

各委員が指摘されているように、統計のところに関しては、東京書籍のほうがやはり見やすいですね。それは大きいだけではなくて、例えば世界の主な湖でも、日本と世界、ちゃんと東京書籍は順番が振ってあるのですね。なので、例えば世界がどうだと。1位、カスピ海、2位、スペリオル湖と言われないと、私もあれっ、五大湖はどこだっけとなるのですが、帝国書院のほうだと順番が振っていないので、書いてあるのが、左からカスピ海、ビクトリア湖、スペリオル湖。よく見ると、スペリオル湖のほうが面積は広いのですが、これはやはりちょっと左から順番なのかなと誤解をしてしまうかなとか、あと、まさにその日本と世界の主な山の高さは、帝国書院に比べると、東京書籍は、何か富士山はそうなのだなみたいなので実感に迫ってくるかなと思いますが、大島委員が指摘されたように、でも、これはどれぐらい使うのかなということだと、社会の授業を何回か学校公開や教育委員で見学に行っていますけれども、この後ろのほうのページを熱心に使っている授業というのは残念ながらあまり見たことがないので、全く使わないということではないと思うのですけれども、そうすると、単に大きいだけではなくて、ピンポイントで使いそうなところは拡大して使っているとか、そういうのが若干帝国書院のほうがいいのかなという気がいたします。

小林委員長

それでは、いろいろ今各委員からご意見が出てまいりました。

私は東京書籍がいいという意見でしたが、帝国書院ではだめということもありませんし、先ほど田辺教育長からも、中野区が分断されているというのが結構大きい状況かなと思います。地図に関しては帝国書院ということで、よろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。ただいまの協議の結果、地図については帝国書院を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

小林委員長

ご異議ございませんので、地図については、帝国書院を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして、教育委員会第3回臨時会を閉じます。お疲れさまでした。

午後8時48分閉会